

山間村落輪唱風景

地域性を生かした農と住が呼応する新たな風景の提案

曾我部昌史研究室 木下和之

研究概要：近年、長野県下條村では農業従事者の高齢化、後継者不足、農作物需要変化などによる第一次産業の衰退と、人口流入による土地利用の転換などにより、共同体の地域性が失われつつある。一方、実態調査から若い新規農業希望者が8割も存在しながら、大半が土地の貸し借りや設備投資の難しさにより農業との関係を持てずにいることがわかった。諸問題が複雑に絡み合う村落共同体と現代社会との関係を地域性により再構築する必要性があった。

研究目的：本計画では、実態調査により表面化した地域性「地形利用」「生産性」「社会性」などをもとに、共同体と現代社会との関係を再構築することで、共同体の持続的生活像と地域の取り組みを共に導く、独自性を持った山間村落共同体を提案する。



苦勞した点や感想など：

地域の諸問題・地域性の整理に時間がかかった。実際に地域の方々へヒアリングやアンケートを行うことで、オリジナルな提案に至ったと感じる。

この提案を契機に自分の地元について考える事が出来てよかった。今後の活動に生かしたい。